



川越市議会議員 無所属

松本きみ

活動報告
令和7年
秋号

◇松本きみ公式HP

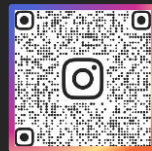
<https://kimi-matsumoto.com/>



喜びの声 子育て支援の会

Tel : 080-6285-5593

Mail : yorokobi@kimi-matsumoto.com



松本きみプロフィール

- ◆川越市南大塚在住 ◆昭和55年4月13日生 2児の母 ◆文京学院大学卒 在学中に保育士・幼稚園教諭資格を取得
- ◆川越市内の南双葉幼稚園に勤務後、市内の保育園にて主任保育士、園長を務める。
- ◆令和5年4月の川越市議会議員選挙にて当選。現在1期目。川越志政会所属。
【所属】小江戸・こども支援推進協議会アドバイザー／川越きもの日実行委員

令和7年10月発行 第10号

日々の活動

	自治会長さんや関係課の皆さまと協力し、ムクドリの追い払い作業を行いました。 夕方の飛来による騒音や糞害への対応は、一度で終わらず、時期ごとに繰り返し取り組む必要があります。地域の皆さまが安心して過ごせるよう、飛来の傾向を見ながら工夫して対策を続けてまいります。		自治会のお祭りに参加しました。 地域の皆さんと交流し、子どもから高齢者まで多くの方が楽しんでおられました。自治会の温かい雰囲気と地域のつながりの大切さを改めて感じました。
	「川越小畔の里クリーンセンター」を視察しました。 焼却残渣などの最終処分を行う重要な施設で、浸出水処理や環境モニタリングなど、周辺への配慮が徹底されていることを確認しました。ごみの減量化やリサイクルの推進は、処分場を長く使うことにつながり、新たな建設費用や環境負荷を抑える上で大変重要だと実感しました。		小江戸・こども支援推進協議会の研修をお手伝いしました。 専門家の方々と現場での課題を話し合い、子どもや保護者の方への支援について学ぶ有意義な研修となりました。
	川越グリーンツーリズム拠点で、農業を志す方や現役で悩むを抱える方々、そして若くして挑戦を続ける農家の方を講師に迎え、勉強会に参加させていただきました。 現場の声や熱い思いに直接触れ、農業の未来に必要なことを共に考える貴重な機会となりました。こうした声をしっかりと行政へ届け、みんなの想いをつなげて持続可能な農業の実現に取り組んでまいります。		川越志政会のみなさんと、地域包括支援センターの視察に伺い、現状の課題や取り組んでいることなど、現場での声を聞いてまいりました。 新しく作っている北公民館について、課題を伺い、質疑させていただきました。

令和7年第4回定例会（9月定例会）報告・・・議案質疑

川越市公民館設置条例及び川越市公民館使用条例の一部を改正する条例を定めることについて

Q	新しい施設になることで、長年利用してきたグループの活動に変化が生じることがあるか？
A	長年利用してきたグループは、引き続き新しい施設でも同様の活動ができるものと考えているが、今までの場所から西方面への移転となるため、一部の利用者は、公民館までの距離が遠くなり、不便になることが考えられる。新しい施設は、ゆとりのある駐車場を備えているほか、平屋建てのバリアフリーの環境や、機能面では地域住民のニーズを取り入れ、より快適な施設に整備した。
Q	市民からの声を継続的に把握する仕組みはどのように整えていくのか？
A	まず、公民館主催講座終了後には、参加者アンケートを実施し、改善点の把握に努めている。また、各公民館では、学識経験者、社会教育団体等の代表者、地域住民の代表者からなる「川越市公民館運営協力委員会」を設置し、各地区の公民館の運営に関してご意見等をいただいている。更に、中央公民館には、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者からなる「川越市公民館運営審議会」を設置し、各種事業の企画実施について提言をいただくとともに、年度ごとの公民館事業の実績に関して、評価を含めたご意見をいただいている。今後も、以上の仕組みを活用した市民ニーズの把握に努めていく。
Q	新しい公民館を通して、市としてどのような地域づくり・コミュニティ形成を目指しているのか？
A	公民館は、地域住民が出会い、出合い、学び、ともに考える場であり、日々の暮らしの中で人と人が出会い、つながり、小さな行動を重ねることにより、地域がつくられ・地域コミュニティの充実・強化に資する、その拠点のひとつが公民館であると考えている。近年、地域住民どうしの関わりの希薄化が課題となっているところだが、公民館が主催する各種講座、地域団体等の自主的な活動の場の提供、登録グループの地域貢献活動などの地道な取組に加えて、ICT等を活用した公民館の「新たなかたち」にも挑戦していくことが「地域のつながり力」を回復・強化することに寄与できるものとかんがえている。

< 保育士の環境改善と子育て支援 >

・一般質問をした理由

保育士の環境改善については、昨年度も一般質問で取り上げました。しかし、現場からは依然として「状況は変わっていない」、「むしろ新たな負担が生まれている」との声が届いております。だからこそ、引き続き優先的に取り組むべき重要政策であると考え、改めて質問を行いました。

Q1 保育士不足の現状を市としてどう把握しているのか伺いたい？

A1 昨年度、国において全国の保育施設と自治体を対象に調査したところ、保育施設の約8割が、直近3年間で保育士の人材不足を感じていると回答している。

不足を感じる主な要因としては、「職員が休暇を取得される際の調整」や「延長保育の時間帯」に職員の確保が難しいなどが、理由として挙げられている。

本市が把握している民間保育施設等の保育士数については、毎月、施設型給付費等の請求の際、各園の職員数が、国が定める配置基準に基づき充足していることを確認している。

保育所等においては、通常教育・保育に加え、一時預かり事業や延長保育事業、地域拠点事業やこども誰でも通園制度など、保育所を中心とした多様な保育サービスが展開される中、保育士の需要は非常に高く、関係団体からも人材確保が非常に困難であり、職員確保のための市の協力について、要望をいただいている。

市が所管する公立保育所についても、市が定める配置基準の職員配置は充足しているが、配慮が必要な児童に対する加配保育士の配置や、職員の突発的な病気休暇などが重なった場合など、保育士の配置に苦慮していることは承知している。

Q2 保育士の処遇改善状況について、市の認識と課題はどのようなものか伺いたい？

A2 民間保育所等に支払われる給付費の積算の基礎となる公定価格については、近年、人事院勧告に伴う国家公務員給与の引上げを反映し、増額見直しが続いていることから、民間保育所等に勤務する保育士の給与改善は進んでいるものと認識している。

しかしながら、国が定めた給付費を算出する際の基準となる地域区分が、本市は周辺自治体と比べて低いため、給付費も低くなり、保育士確保の観点からは、施設間の競争力において、課題があるものと認識しているので、今後も国の動向を注視してまいりたいと考えている。

Q3 保育士の処遇改善に対し、市は独自加算などの施策をどのように行っているのか伺いたい？

A3 公定価格に位置付けられる教育・保育の提供に従事する人材の確保及び資質の向上のための処遇改善等加算については、施設型給付費等を民間保育所等に対し、適切に支払いをしている。

また、施設への支給は、保育士等の雇用を含め、保育の充実に積極的な民間保育所に対し、民間保育所運営費補助金を市単独事業費として支給している。

Q4 市は、子育て支援を、人口減少対策や地域活性化の柱としてどのように位置づけているのか伺いたい？

A4 全国的な少子高齢化や人口減少を背景に、本市においても、今後、本格的な人口減少局面に突入することが見込まれ、まちの活力への影響が懸念されている。

こうした中、子育て支援を通じ、安心して子育てでき、こどもを育てたいと思える環境を整備することは、少子化の進行のペースの緩和や、若い世代や子育て世帯の転入や定住の促進につながるなど、人口減少対策に寄与するものと考えている。

また、若い世代や子育て世帯の増加は、地域社会に新たな活力を生み出し、地域の活性化にも繋がっていくものと考えている。

なお、本市における子育て支援については、本年3月に策定した「川越市こども計画」において、「妊娠期からの切れ目のない支援と親子の触れ合いの機会の充実」や「幼児期の教育・保育の充実と保護者への支援」などの基本目標を掲げ、各種取組を進めている。

Q5 川越市では子育て支援等に関する計画として、川越市こども計画があるが、今後、どのように進めていくのか伺いたい？

A5 川越市こども計画では、「全てのこども・若者が自分らしく輝き健やかに成長し、地域全体で子育てできるまち川越」を基本理念として掲げているが、これを市単独で実現することは難しいことから、市は関係機関と連携して横断的に事業に取り組むとともに、市民・事業者・地域組織等との協働や、教育・保育関係者等のこども・子育て支援事業者をはじめとする多様な主体の連携・協力により、施策を推進していく。また、こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、事業の実施や評価の過程においても、こどもたちの意見を聴きながら、共に進めていくよう努めていく。

なお、計画の推進にあたっては、本計画に位置付けた取組を効果的に推進するため、PDCAサイクルに基づき、事業の進捗状況を把握するとともに、川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会において、毎年度点検・評価を行うなど、本計画の着実な推進を図ってまいりたいと考えている。

・感想

私は、これまでの現場経験を活かし、先生方が「この仕事を続けてよかった」と思える環境の実現に全力で取り組んで参ります。そして川越市においても、独自の施策を積極的に展開し、現場の声に応える取り組みを進めていただくようお願いいたします。

< 多胎児支援について > みなさまの声が形になりました !!

令和7年第1回定例会（3月定例会）にて一般質問を行った「多胎児家庭への支援」が、このたび保育園への入所選考で加点されることになりました。

双子・三つ子を育てるご家庭にとっては、ほんの少しでも子育てがしやすくなる大切な一歩だと思います。この改善にご尽力いただいた関係課の皆さまに、心から感謝申し上げます。